

三原市民と市長の「みらいトーク」(第20回)実施結果

令和5年1月30日

日時 令和5年1月30日(月)18時00分から19時30分まで
場所 三原市消防本部3階講堂 三原市宮浦1-22-2
出席者 三原市消防団6名及び三原市長
テーマ 消防団が直面している課題等について

1 中央方面隊の屯所について

【参加者から】

・災害時に車両を動かすために最低2名は必要で、平日は人が集まるまで待つことが多かった。新しくできる中央方面隊の屯所は、5分団が集約されるので、集まりやすく出動する人数は確保しやすい。また、中学校に隣接しており、訓練などの活動風景が見えることによって、消防団をアピールできていると思っている。様々なメリットがあり、未来へつながる拠点が出来るという事は素晴らしいと思っている。

・大きな災害では分団単位での活動には限界があり、分団や方面隊を超えた広域での活動を進めている。しかしながら、拠点となる施設が乏しく、新築設計中の5つの分団を集約する中央方面隊屯所には期待している。

【市長から】

・この中央方面隊屯所のデザインを募集した学生チャレンジコンペで、最優秀作品となった学生たちも、5分団が連携しやすい建物にしたい、近隣住民に消防団活動を身近に感じてもらいたいといったコンセプトを基にプレゼンテーションをしていた。消防団員の皆さんが使いやすいだけでなく、いろいろな相乗効果が出ることを期待している。

2 消防団に入って思ったこと

【参加者から】(新入団員)

・三原市に長年住んでおり、三原市のためにと思い入団を決意した。団員の方との新たなつながりを持てたことや、消火栓を気にしたり、災害があった場所を確認したりするようになった。
・子供が生まれたこともあり、消防団活動との両立で理解が得られるようにしていかなければいけない。

【市長から】

・消防団に入ることによって街の見方が変わるというのは大変いい話で、若い人たちにそういった話をすれば、消防団に対する関心を持っていただけるのではないかな。

3 人手不足の解消について

【市長から】

・人手不足は全国的に見ても課題だと思いますが、何か解決策になるようなことはありませんか？

【参加者から】

- ・特に若い人たちが持つ消防団に対する悪いイメージを払拭するために、いろいろなアピールをして、理解をしてもらわなくてはいけない。
- ・団員証や活動服など、カッコいいものにして、消防団のイメージを良くしないといけない。
- ・今の活動服を着て祭りの警戒に行くのは抵抗があるという若い団員もいる。

【市長から】

- ・アピールするためにカッコいいイメージは大事だと思います。小中高生が見たときにカッコいいと思っていただけるようなものがある。
- ・女性の団員が少ないことも課題だと感じているところですが、女性の団員について意見がありますか？

【参加者から】

- ・女性団員が少なく、屯所に女性用トイレが無いなど、女性を受け入れる体制も整っていない。他都市では各分団に属しての活動や、女性団員のみが集まって広報活動をするなど幅広い活躍をしている。
- ・女性の方が、時間が取れないという方が多い。
- ・他都市では学生の女性団員がいるところもある。

4 家族の理解について

【市長から】

- ・消防団活動には家族の理解が必要だと思いますが、具体的なエピソードがありますか？

【参加者から】

- ・本人が消防団に入りたくても、家族の同意が得られないことがある。
- ・火災現場での消防団活動を目の当たりにして、感謝の気持ちを持っていた妻が、最後に背中を押してくれた。
- ・両親は消防団に悪いイメージを持っていた。
- ・活動に際して家族にサポートをしてもらっている。消防団をやめるときには、まず家族に感謝の気持ちを伝えたい。

5 装備品について

【参加者から】

- ・車両の誘導や、災害時に危険を知らせるための笛が貸与されていない。災害時に声だけでは聞こえない恐れがあり、安全管理のためにも貸与してほしい。
- ・無線が使いにくく、災害時に情報伝達に支障があることがある。新しいものに更新できないか。
- ・車載のスピーカーが災害時に音が小さく聞こえないことがあり、伝えたくても伝えることがで

きないことがあった。

・夜間の活動が多いので、ヘッドライトが必要。懐中電灯では手がふさがって活動に支障が出る。

【市長から】

・災害時に危険な場所で活動する消防団皆様には頭が下がる思いです。安全第一で活動をしていただきたいと思う。

6 今後の活動について

【参加者から】

・大規模災害に対応できるよう、分団や方面隊を超えた活動が出来るよう、訓練をしていきたい。また、それに対応できる装備品があれば良い。

・訓練指導員を中心に各団員の技術向上を図りたい。

・消火方法や消火栓の開け方だけをとっても消防署員とのスキルの差が大きい。もっと合同訓練を行い連携を深め、消防団員の技術を向上させて現場で生かしたい。

・火災を未然に防ぐため、広報活動に力を入れていきたい。予防課と連携しながら、効率的な予防広報が出来るようにしたい。

・消防団活動は地元の協力がないと成り立たない。地元とコミュニケーションをとりながら活動をしていくことが大事だと思う。

【市長】

・市長として市民の安心安全を守るため全力を尽くしていきたい。消防団の皆さんが現場で汗を流していただいていると日ごろから思っていたが、リアルな話を聞いて、よりイメージができるようになった。これを生かし、いい連携を取りながら、災害に強い街にしていきたい。